

ふれあい通信



吉田 徳一

- 夏井出身
- 神奈川支部

懐かしの磐越東線

高校を卒業するまで過ごしたふるさとでの18年は意外と長く感じていました。東京に出てからは月日が経つのが早く感じられ、あっという間に54年が過ぎました。ふるさとでの生活の中で、切っても切れないものに磐越東線があります。当時は自家用車も少なく、バスの便も悪く、主に鉄道が頼りでした。実家は夏井地区の中で最もいわき寄りの集落で夏井駅までは徒歩で15分程のところにあります。

磐越東線は実家の前を走っていたので、庭先や畑仕事などの時に一日6往復程度の往來は時刻を知らせる目安でもありました。当時は蒸気機関車牽引の客車で

トンネルが近づくと窓を閉め、煤(すす)が入らないようにしたものです。燃料の石炭を線路上にこぼしていくことが希にあり拾い集めたこともありました。実家の前付近は峠のようになっているため、速度が落ち貨物列車などは登り切れなくて止まってしまい、夏井駅付近まで戻って馬力を付け勢いよく登って行きました。ここを越えればいわきまで登りはありません。特によく止まったのは神俣駅から石灰石を積んだ貨車でした。いわきの四倉にあるセメント工場まで運んでいたそうです。大越にセメント工場ができるまで続けました。

私は高校通学に三春まで磐越東線を利用しました。4月から9月までは夏時間の授業なので小野新町駅始発6時30分の汽車に乗らなければなりません。帰りは夏井駅で降りられるのですが、朝は小野新町駅まで徒歩で約1時間掛かります。朝5時起床はつらいものでした。10月からは冬時間授業になり30分程遅くなるため、平から来る汽車に7時過ぎに夏井駅で乗れるので少し楽になりました。汽車の中は交流の場となり賑やかでした。特に夏時間の期間は郡山方面の高校へ通学する人たちも一緒にになりさらに盛り上がりました。

ちょうど、高校通学の頃から徐々にディーゼルカーが増えてきました。現在は本数も当時に比べて大分少なくなりました。

今でも地元に戻ると思い出す懐かしい記憶です。

地域おこし協力隊活動記

初開催「ブック・カフェ(読書会)」レポート 小野町地域おこし協力隊 宍戸佳織里

こんにちは。協力隊の宍戸佳織里です。

「ブック・カフェ(読書会)」を昨年11月17日に小野町のイタリアンのお店「チルコロ・イル・ピッコロ・カンポ」で行いました。参加者は10人。小野町だけでなく、田村市、郡山市、古殿町、川内村からもお越しいただきました。

読書会では3人ずつグループに分かれ、持ち寄った好きな本を紹介しました。靴職人を描いた漫画、北米インディアンの伝説をもとにした絵本、アイザック・アシモフの短編推理小説など、さまざまなジャンルの本が登場しました。「本好きな人と語れて最高でした」「新しい本との出会いがあって、よかったです」といった感想をいただきました。

開催にあたり、読書好きなピッコロ店主ご夫妻にたくさんのご協力をいただきました。おいしいピザ、デザートをご用意いただき、読書会も一緒に楽しんでいただきました！

今後も、こまち書房での「ビブリオバトル」など、本に関するイベントを毎月開催します。ご興味のある方は宍戸までご連絡ください。

お問い合わせ先：kshishido.ono@gmail.com



おやつは洋ナシパンナコッタ！
撮影：たむランド荒井雅美